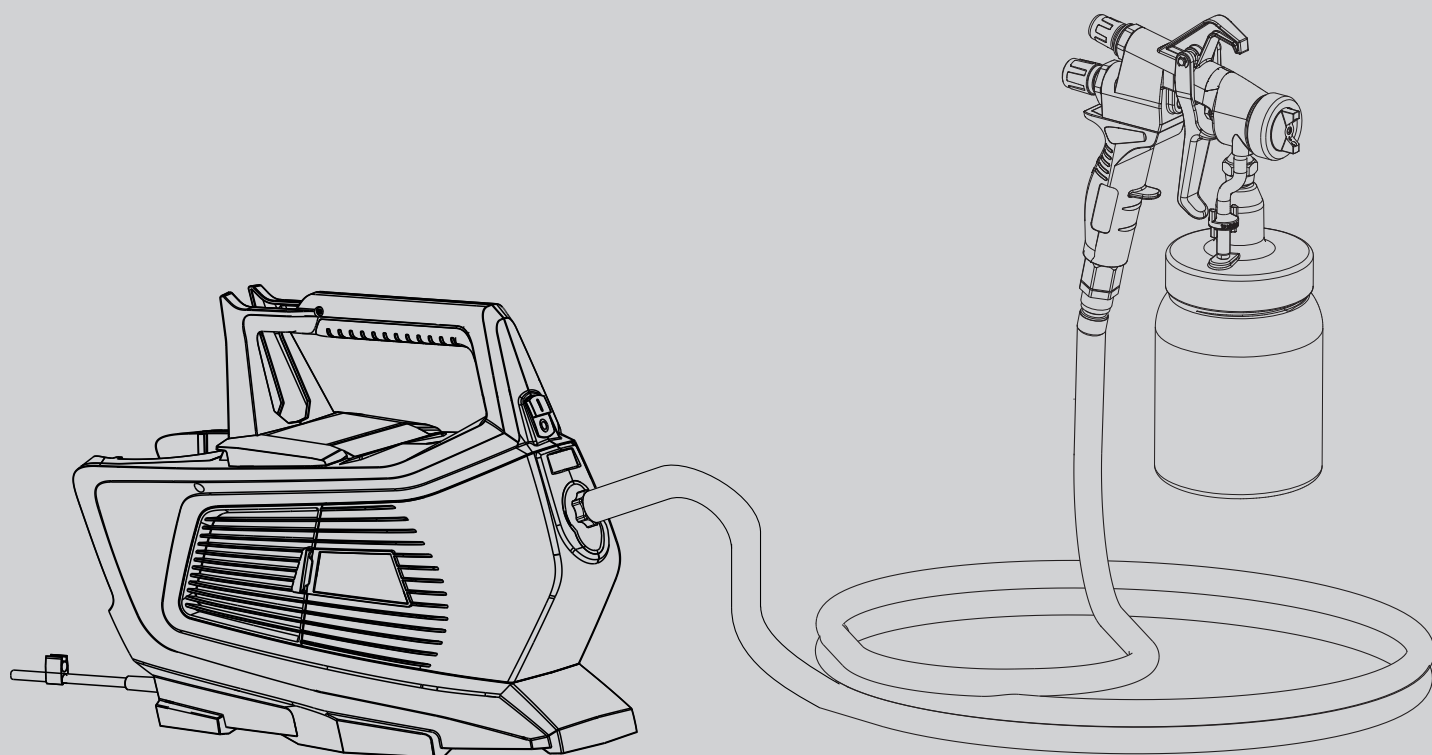


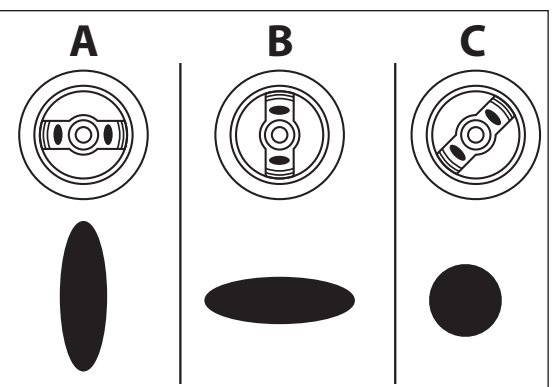
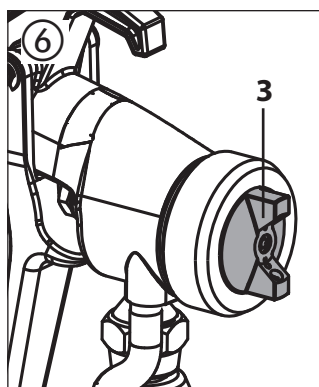
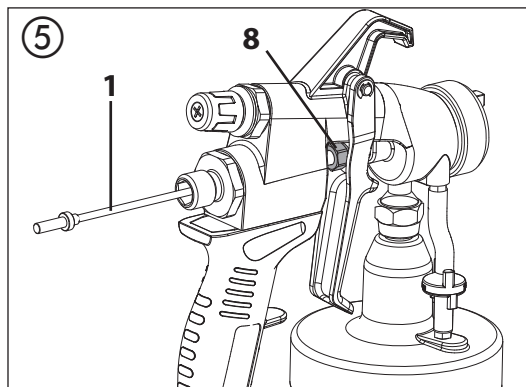
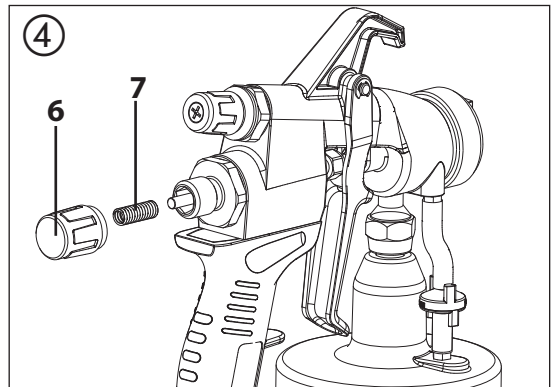
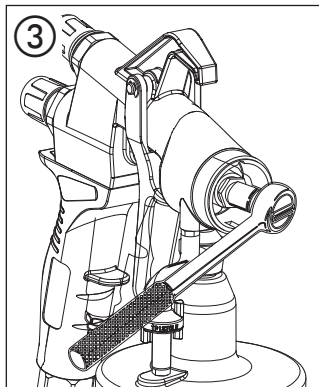
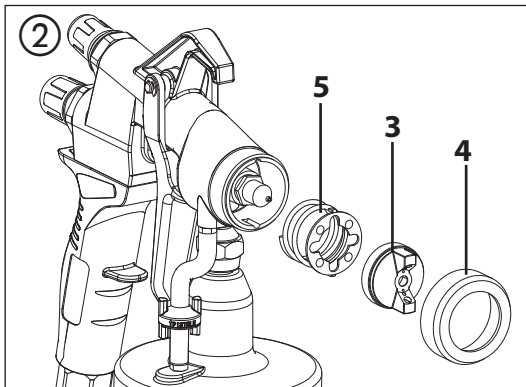
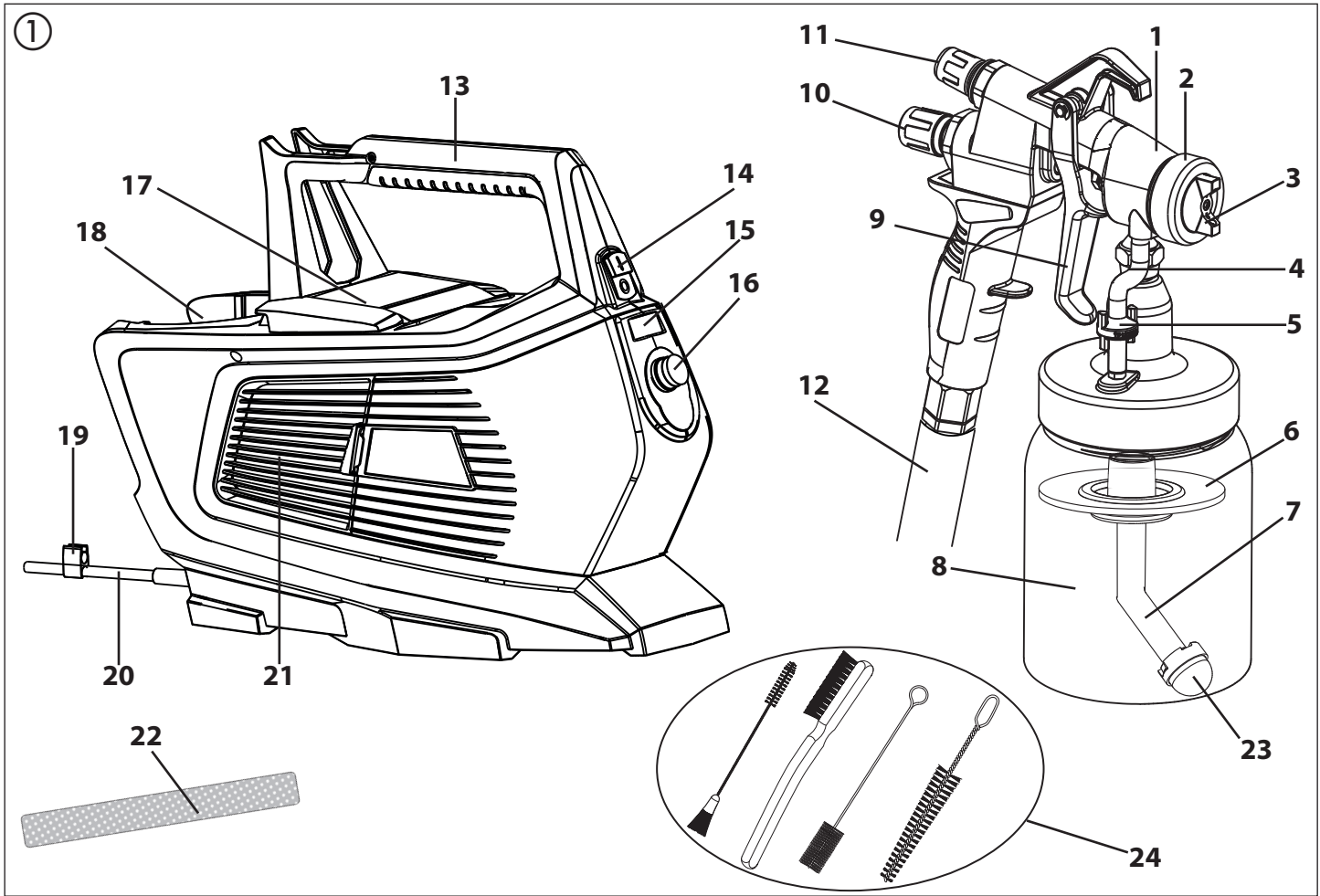
WAGNER



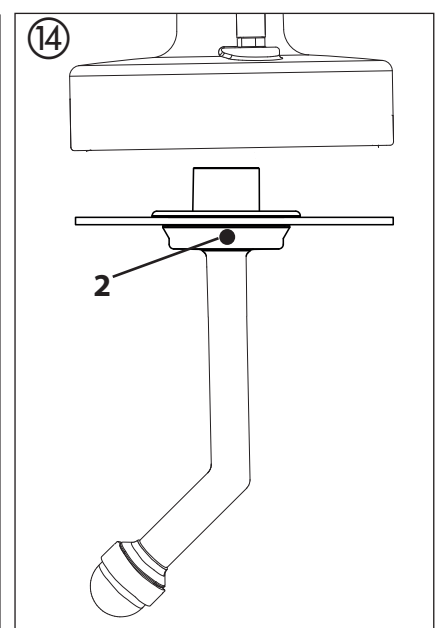
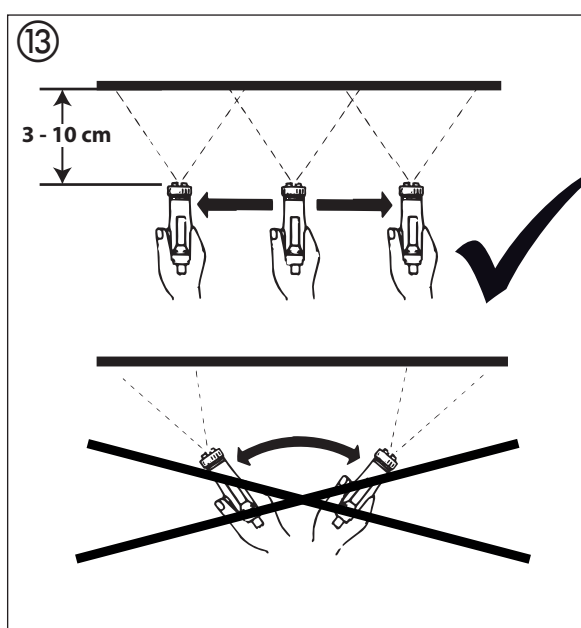
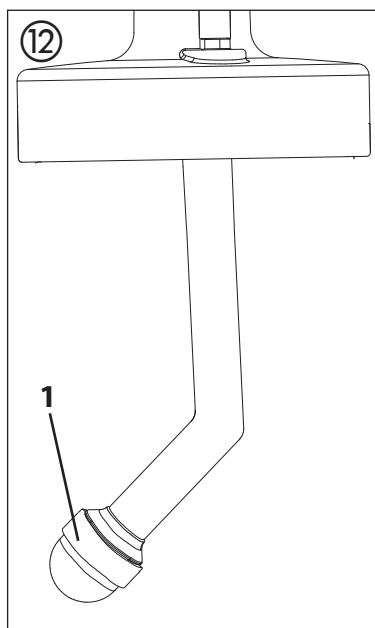
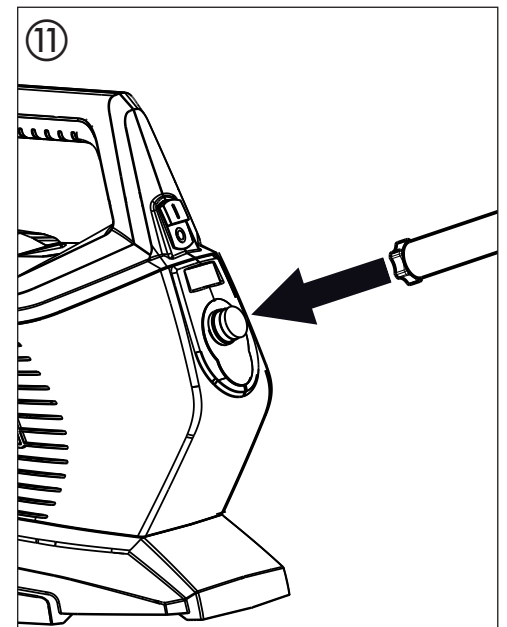
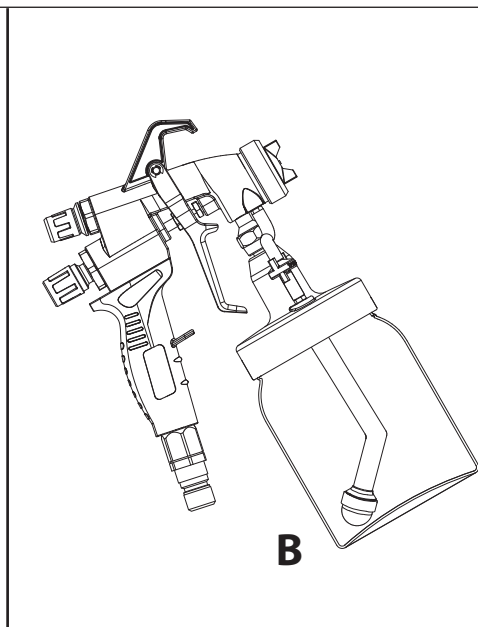
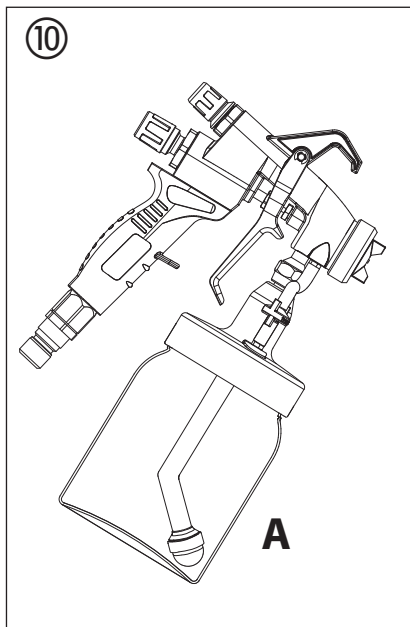
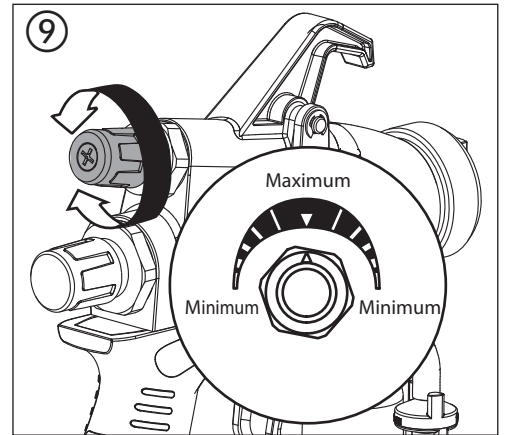
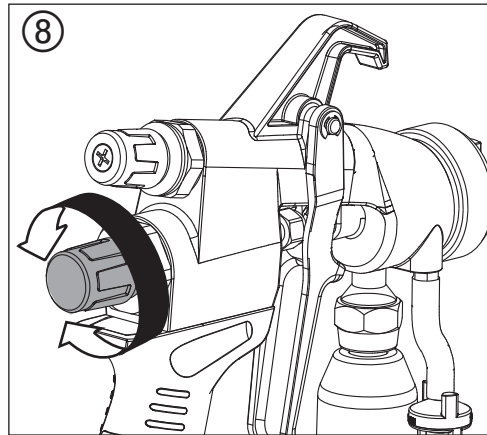
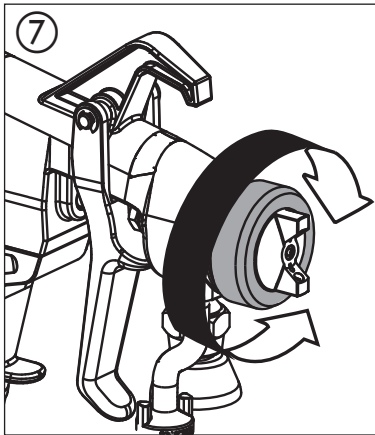
FINE COAT 9700

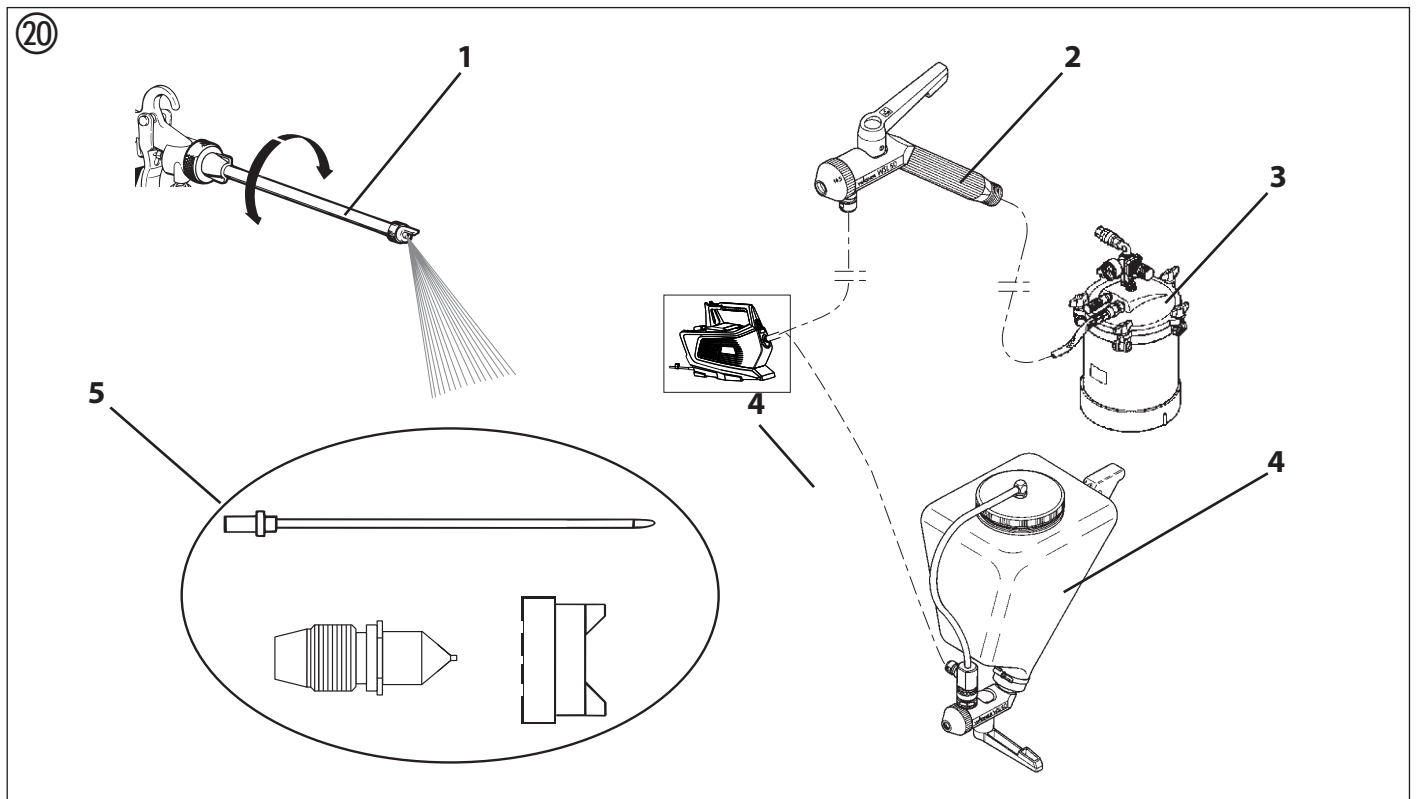
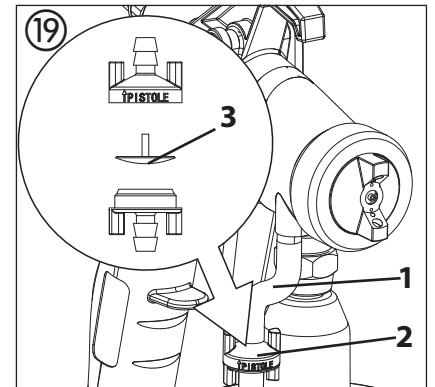
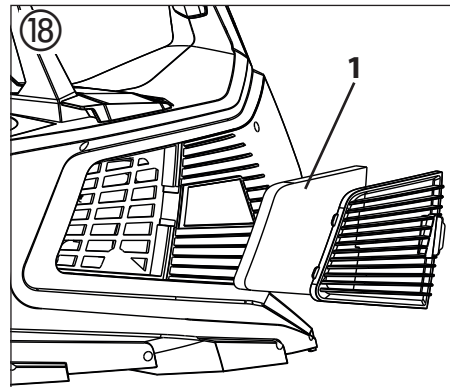
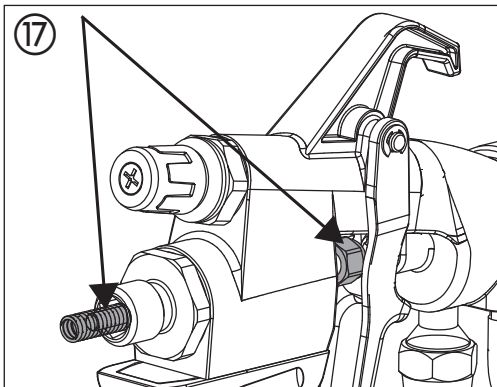
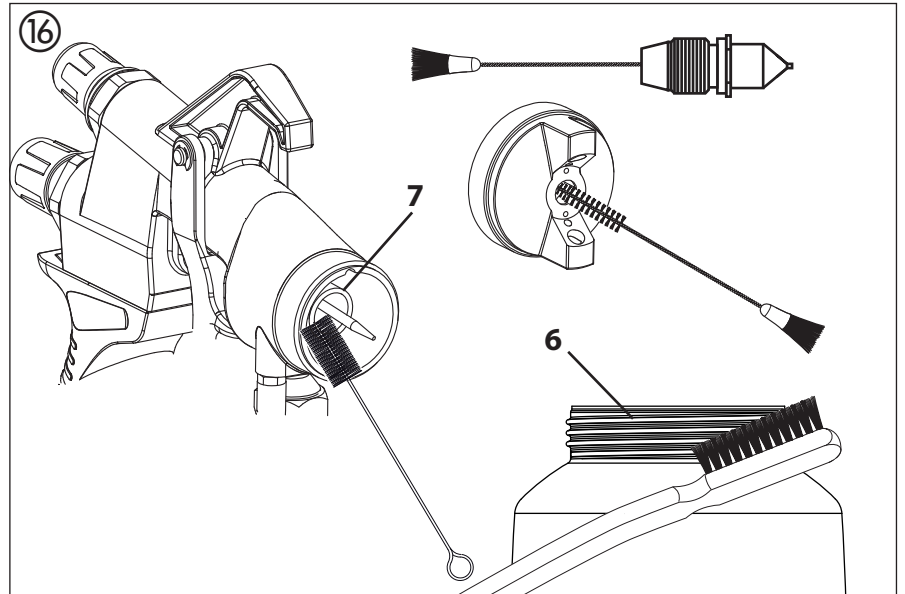
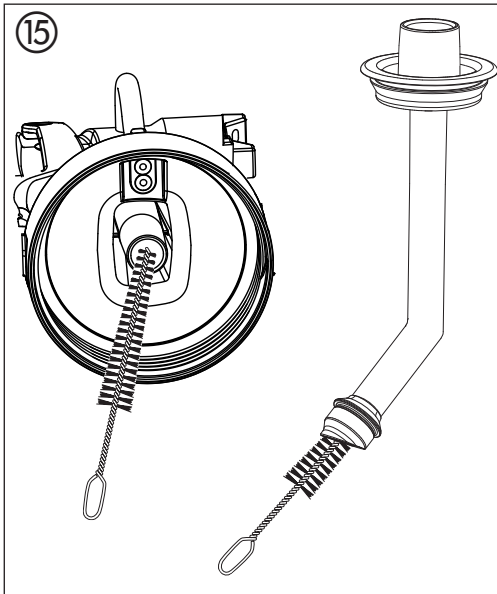
JA

- JA - 操作説明書



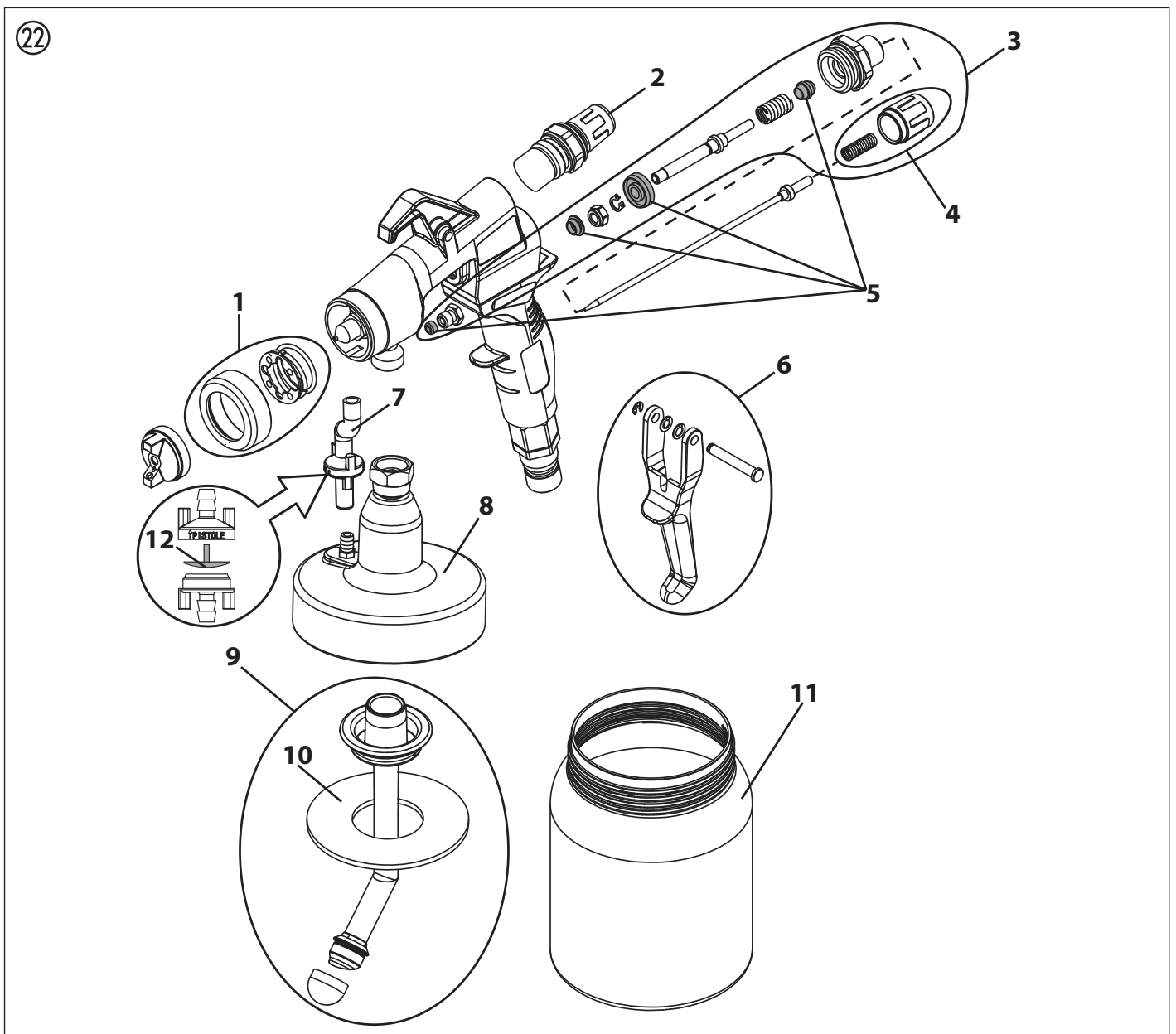
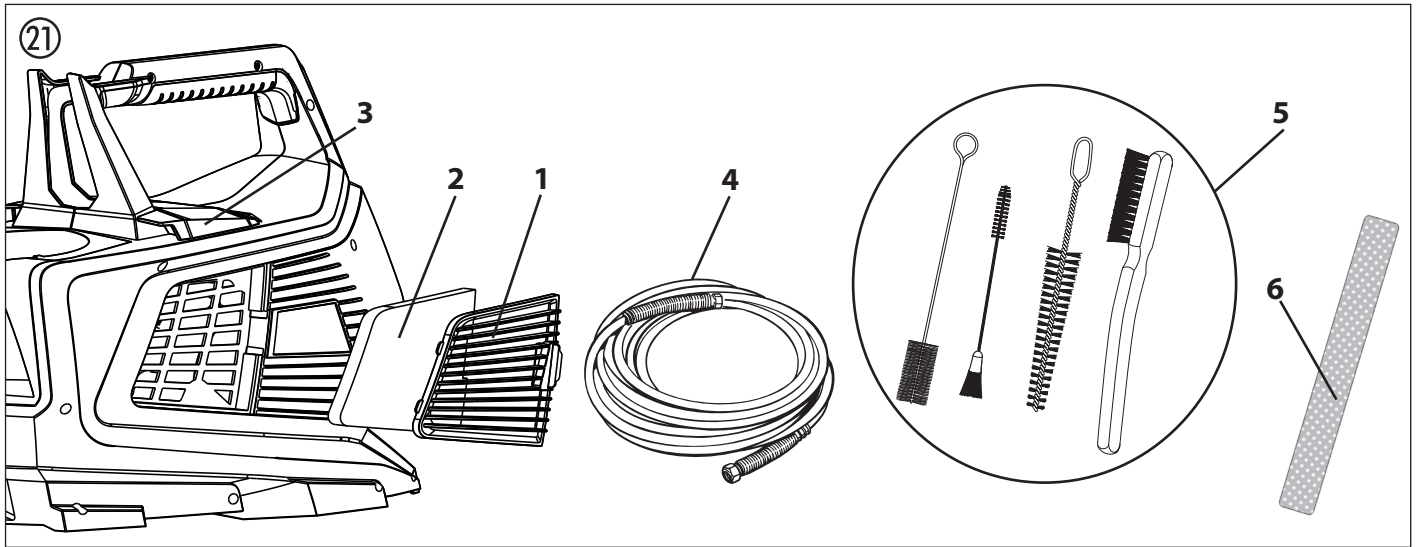
FineCoat 9700





FineCoat 9700



WAGNER



目次

1	安全規定	1
2	説明図	4
3	プロジェクターセットの選択	4
3.1	プロジェクターセットの交換	4
4	技術データ	5
5	HVLPテクノロジーについて	5
6	コーティング剤	5
6.1	使用できるコーティング材	5
6.2	使用できないコーティング剤	5
6.3	コーティング剤の準備	5
7	スプレーガンの調整	6
7.1	スプレーパターンの調整	6
7.2	吐出量の調整	6
7.3	空気量の調整	6
7.4	サククションチューブの調整	6
8	使用開始	6
9	塗装方法	6
10	作業の中断	7
11	運搬	7
12	使用の停止とクリーニング	7
12.1	組立	7
13	メンテナンス	8
13.1	エアフィルター	8
13.2	空気弁	8
13.3	ガン一式	8
14	トラブルシューティング	9
15	付属品と交換部品	10
15.1	付属品	10
15.2	FINECOAT 9700の交換部品	10
15.3	Ultraスプレーガンの交換部品	10
	機器の点検	11
	廃棄に関する注意	11
	製造物責任に関する重要事項	11
	保証書	11

記号の説明

	<p>この記号は、使用者または機器に対する潜在的な危険性を示します。この記号の下には、怪我や機器の損傷を防ぐために重要な情報が記載されています。</p>
	<p>使用上のコツや、便利なヒントを示します。</p>

1 安全規定

注意！法律で定められている規則および安全要件のすべてに従う必要があります。危険を回避するため、本操作説明書を注意深く読み、記載されている指示に従ってください。

1. 作業環境の安全性

- a) 作業環境は、清潔に保ち、十分な照明を用意してください。整頓されていない場所、照明の不十分な場所での作業は、事故につながりかねません。
- b) 本機は、可燃性の液体や気体、塵のある、爆発の危険のある環境で使用しないでください。本機から出た火花によって、塵や気体が引火する可能性があります。
- c) 本機の使用中は、幼児など、作業員以外の人を近づけないでください。気を取られ、操作を誤る可能性があります。

2. 電気の安全性

- a) 本機の電源プラグがコンセントに合っていることを確認します。絶対にプラグを改造しないでください。適切なプラグとコンセントを使うことで、感電のリスクが最小限に抑えられます。
- b) 本機を雨や水で濡らさないでください。本機に水が浸入すると、感電のリスクが高まります。
- c) 電源ケーブルを、本機の運搬や吊り下げといった目的に使用したり、コンセントからプラグを抜くときに引っ張ったりしないでください。電源ケーブルを、熱やオイル、尖った物、可動部品の近くに置かないでください。電源ケーブルが破損したり絡まったりすると、感電のリスクが高まります。
- d) 本機を屋外で使用する場合は、必ず屋外での使用に適した延長ケーブルを使用してください。屋外での使用に適した延長ケーブルを使うことで、感電のリスクが抑えられます。
- e) 本機を湿気の多い環境で使用しなければならない場合は、漏電遮断器を使用してください。漏電遮断器を使用することで、感電のリスクが抑えられます。
- f) 本機、被塗物は必ずアースを取ってください。静電気が発生するとスパークを起し、火災・爆発・電気ショックの原因になります。

3. 人体の安全

- a) 自分が行っていることに集中し、十分な注意を払って本機を扱うようにしてください。疲れているとき、またはアルコール、薬の影響下にあるときは、本機を使用しないでください。本機の使用中は、一瞬の不注意が深刻な怪我につながりかねません。
- b) 個人用防護装備を着用し、必ず安全ゴーグルをはめてください。防塵マスクや滑り止めの付いた安全靴、安全ヘルメット、防音保護などの個人用防護装備を着用すると、怪我のリスクが抑えられます。
- c) 誤って運転開始しないようにしてください。電動工具を電源やバッテリーに接続したり、手に取ったり、運んだりする前に、電動工具の電源が切れていることを確認してください。電動工具を持ち運ぶときにスイッチに指をかけた時、工具にスイッチが入った状態で電源に接続すると、事故につながる可能性があります。
- d) 作業場所から調整用工具やスパナ等を取り除いてください。本機の回転部品の近くに工具やスパナ等があると、怪我につながる可能性があります。
- e) 不自然な姿勢で作業をしないでください。不自然な姿勢でいると、予期しない状況が発生した場合に本機を適切にコントロールできません。
- f) 適切な衣服を着用してください。ゆるめの衣服や垂れ下がる装飾品を着用しないでください。髪、衣服、手袋を可動部に近づけないでください。ゆるい衣服や装飾品、長い髪は、可動部に巻き込まれる可能性があります。
- g) 安全でないのに間違えて大丈夫だと思い込まないでください。電動工具を何度も使用して習熟している場合でも電動工具の安全規則を無視しないでください。不注意に行動すると、一瞬で重傷につながる可能性があります。

4. 電源装置の取扱いと使用

- a) 電源に過度な負荷を与えないでください。本機に適した電源を使用してください。適切な電源を使えば、指定の出力範囲で確実に、効率よく作業できます。
- b) スwitchの故障した本機は使用しないでください。スイッチを入れたり切ったりできない本機は、危険なので修理が必要です。
- c) 本機の調整や付属品の交換を行うとき、または本機をしまうときは、必ずプラグをコンセントから抜いてください。このような安全対策を取ることで、本機の偶発的な事故が防止できます。
- d) 使用していない本機は、子どもの手の届かない場所に保管してください。本機の使用法に詳しくない人や、操作説明書を読んでいない人には、本機を使用させないでください。

安全規定

いでください。本機は、経験のない人が使用すると危険です。

- e) 本機の手入れは、丁寧に行ってください。可動部品がスムーズに動作すること、部品が破損していないこと、部品に本機の機能に影響するような損傷がないことを確認してください。損傷がある部品を修理してから、本機の使用を再開します。事故の多くは不適切なメンテナンスに起因しています。
- f) 本機付属品、操作工具などは、その機種に規定されたものを、操作説明書に従って使用してください。その際、必要な作業と作業環境に注意を払ってください。規定されている以外の用途に電気部品を使用すると、危険な状況を招く可能性があります。
- g) グリップとグリップ面は油脂が付いていない、清潔で乾燥した状態に保ってください。グリップやグリップ面がすべりやすいと、予期しない状況で電動工具を安全に操作したり、制御したりできなくなります。

5. サービス

- a) 機器の修理は、必ず資格を持った専門技術者が純正交換部品を使って行うようにしてください。そうすることで、機器の安全性が保たれます。
- b) 本機の電源ケーブルが損傷した場合は、危険を回避するため、メーカーかその顧客サービス、または同様の資格を持つ販売店に交換を依頼してください。

 塗装機器の安全上の注意

1. 火災および爆発の危険
コーティング剤のスプレー塗装や、コーティング剤および溶剤の蒸発により、作業環境に可燃性ガスが発生します(危険区域)。
危険区域では、引火源による火災および爆発の危険があります。
電気式スプレー自体にも引火源(スイッチの作動時やプラグの挿入/引き抜き時にモーターから出る火花、静電気によってスプレーガンから出る火花)があります。
-> 本機を、爆発防護の法令で規制される施設で使用しないでください。
-> 基本ユニットと電源は、危険区域の外になければなりません。
-> 可燃性のコーティング剤や洗剤を使用しないでください!
-> 本機の近くにある塗料または溶剤の容器は、必ず蓋・栓をしっかりと閉めてください。
-> 危険区域に、火や、火を付けたタバコ、赤熱したワイヤー、高温の表面、研削切断による火花などの引火源がないことを確認してください。
-> 溶剤を使って本機を洗浄する際、口(栓)の小さい容器の中にスプレーしないでください。爆発性の混合ガスが発生して危険です。
スプレーを受ける容器は、接地アースされていなければなりません。
2. 怪我の危険性があります!
スプレーガンを自分や他の人、動物に絶対に向けないでください。
3. 塗装作業中は、保護マスクを着用してください。使用者に保護マスクを提供してください。
業務上疾患を予防するため、準備や作業、機械の洗浄を行う際は、使用している塗料、溶剤、洗剤のメーカーの処理規定に従ってください。皮膚を保護するため、防護服や安全ゴーグル、手袋、場合によっては皮膚保護クリームが必要です。
4. 注意: 屋内や屋外で塗装機を使用する場合、溶剤の蒸気がモーターファンの方向に流れていかないよう、また、塗装機の周辺で溶剤を含む蒸気が発生しないよう、注意してください。モーターファンは、塗装対象とは反対側に配置します。屋外では、風向きを考慮してください。屋内で作業するときは、溶剤蒸気を散らすため、十分な換気を行う必要があります。モーターファンと被塗物は、少なくとも3メートル離して置くようにします。

5. 注意: 本機は、防水設計ではありません。雨の中での使用や、水を掛ける、液体に浸すなどの行為は、おやめください。湿った場所、濡れた場所で本機を使用しないでください。
6. 本機は、チェックバルブセットが正常に機能する状態でのみ使用できません。塗料が通気ホース(図1の4)内を上がってきた場合は、本機の使用を中断してください! 通気ホース、チェックバルブキャップ、弁を取り外し、洗浄し、必要なら弁を交換してください(13.2を参照)。
7. 充填したスプレーガンは、横にして置かないでください。
8. 排気設備は、地域の規定に従って、使用者側で用意します。
9. コーティングする被塗物は、アースしなければなりません。
10. スプレーされた塗料から生じる危険性に配慮し、容器に貼られているラベルや塗料のメーカーによる注意事項をよく読んでください。
11. 危険性を把握していない塗料は、使用しないでください。
12. スプレーアタッチメントを取り外す前に、容器を回して緩め、圧力を抜いてください。
13. 本機のメンテナンスをする場合、コンセントからプラグを必ず抜いてください。
14. 電気機器の処理または修理は、電気技術者だけが実行できません。操作説明書に注意事項が記載されている場合でも、これらの作業は電気技術者に依頼してください。取り付けが不適切であった場合、保証対象外になります。
15. 本機の上に座ったり、立ったりしないでください。倒れたり、破損したりする危険があります。
16. ホースとスプレーガンのクイックリリース部は使用時に熱くなります。熱くなったときはクイックリリースファスナーに触れないようにしてください。ホースからスプレーガンを離す前に、まずクイックリリースファスナーを冷ましてください。
17. 製造元が承認した部品のみを使用してください。最小限の技術要件を満たさない部品を使用する場合、使用者はすべてのリスクとすべての責任を負います。

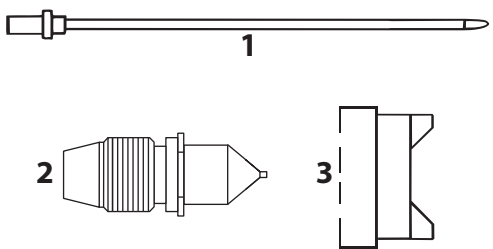
2 説明図(図1)

番号	名称	番号	名称
1	ガン一式	15	エアーフィルター警告灯(メインエアーフィルターが詰まると赤く点灯)
2	スプレーパターン幅調整	16	エアホース接続口
3	エアーキャップ (作業方向の調整用)	17	収納BOX
4	エアーチューブ	18	カップホルダー
5	チェックバルブキャップと弁	19	電源ケーブル用クランプ
6	カップパッキン	20	電源ケーブル
7	サクシオンチューブ	21	エアーフィルターのカバー(左と右)
8	コンテナ	22	エアホース用固定テープ
9	トリガー	23	サクシオンチューブフィルター(白)
10	吐出量調整ノブ	24	洗浄ブラシ(4個)
11	空気量調整ノブ		
12	エアホース		
13	持ち手		
14	メインスイッチ(1=オン、0=オフ)		

3 プロジェクターセットの選択

i


HVLP塗装スプレーガンには、作業を実施するのに適したプロジェクターセットが装備されている必要があります。プロジェクターセットはニードル(1)、ノズル(2)、エアーキャップ(3)によって構成されています。



プロジェクターセットは次の2つの基準、スプレーする塗料の種類と希望の表面仕上げに基づいて選択してください。P5の表を使えば、正しい選択がしやすくなります。

3.1 プロジェクターセットの交換

1. 調整リング(図2、4)、エアーキャップ(3)、スプリングプレート(5)を取り外します。
2. スプレーノズルを取り外します。(図3)
3. 塗料調整ノブ(図4、6)とスプリング(7)を取り外します。
4. ニードル(図5、1)を取り外します。



ニードルが簡単に取り出せない場合は、ニードルまたはシールが損傷しないよう、ナットを緩めず(図5、8)。

5. 新しいプロジェクターセットの取り付けは逆の順序で行います。

4 技術データ

電圧:	110 V~, 50/60 Hz
消費電力:	900 W
最大電流	9 A
プロジェクターセット (標準)	No. 4(1.8 mm)
容器の容量:	1000 ml
エアホース:	7,6 m
電源ケーブル:	4 m
塗料の最大許容温度	43 °C
保護等級:	I
騒音レベル:*	80 dB (A)
重量(モーターファン、エアホース、スプレーガン):	6,8 kg

* アコースティック・エミッション値はEN 62841-1に基づいて算出されています。

5 HVLPテクノロジーについて

HVLP (High Volume Low Pressure) は、多量の空気を使い、空気圧を抑えた低圧スプレー技術です。この技術の特長は、スプレーミストの発生量が少ない点です。そのため、マスキングの手間が最小限に抑えられます。従来のコーティング塗装に比べ、経済的で、塗装面の質が高く、同時に環境に優しい技術です。

機能内容

塗装機には、モーターファンが内蔵され、エアホースを通じて空気をスプレーガンに送ります。スプレーガン内で、この空気の一部を使い、容器が加圧されます。この圧力によってコーティング剤がサクシオンチューブを通してノズルへと運ばれ、残りの空気と共に噴霧されます。作業に必要な設定(吐出量など)は、スプレーガン本体で簡単に調整できます。

6 コーティング剤

6.1 使用できるコーティング材

溶剤ベースの仕上げ塗料と水性仕上げ塗料
 ステイン、防水塗料、油性塗料、クリアコート、合成樹脂塗料、カラーラッカー、アルキド樹脂、下塗り塗料、暖房機用塗料、ハンマートーン塗料、さび止め塗料、等

6.2 使用できないコーティング剤

強い研磨効果を持つ成分を含んだ塗料、砂状塗料、苛性ソーダ、酸性のコーティング剤。
 可燃性のコーティング剤
 二液型塗料で可使用時間の短い塗料

6.3 コーティング剤の準備

i	コーティング剤の容器や包装材、または同梱の資料に記載されている取扱上の注意を参照してください。
----------	---

コーティング剤の清浄度:

ファインスプレーシステムが正常に機能するためには、コーティング剤に混在物がないことが絶対的条件となります。混在物が混じっている可能性がある場合は、コーティング剤を細かいふるいにかけてからご使用ください。

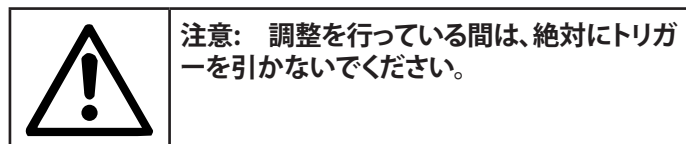
塗料の希釈/スプレーノズルセットの表

コーティング剤	粘度 DIN-S*	プロジェクターセット
ステイン、防水塗料、油性塗料	薄めない	2 - 3 (0,8 mm - 1,3 mm)
溶剤ベースの仕上げ塗料	15 - 45	3 - 4 (1,3 mm 1,8 mm)
水性仕上げ塗料	メーカーの注意事項に従います	4 - 5 (1,8 mm- 2,2 mm)
テクスチャーラッカーと効果ラッカー	メーカーの注意事項に従います	5 - 6 (2,2 mm - 2,5 mm)
カラフル効果の塗料、マルチカラー塗料	メーカーの注意事項に従います	6 - 7 (2,5 mm - 2,7 mm)

* 粘度カップを使用してください (P/N 50342)。粘度測定カップを縁まで塗料の中に漬けます。測定カップを取り出し、液体が流出するときに途切れるまでの時間(秒)を計ります。

7 スプレーガンの調整

7.1 スプレーパターンの調整 (図6)



注意: 調整を行っている間は、絶対にトリガーを引かないでください。

エアークャップ (図6の3) を希望のスプレーパターン位置に回して取り付けます。

- | | | | |
|---|---------------|---|--------------------|
| A | 水平方向のフラットスプレー | → | 横長の塗装面に |
| B | 垂直方向のフラットスプレー | → | 縦長の塗装面に |
| C | 丸吹きパターン | → | 隅や角、なかなか手の届きにくい箇所。 |

調整リングとともにスプレージェット幅も設定できます (図7)。

- | | | |
|------|---|----------------|
| 右に回す | → | スプレーパターンの幅を広げる |
| 左に回す | → | スプレーパターンの幅を狭める |

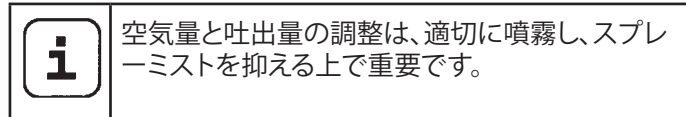
7.2 吐出量の調整 (図8)

吐出量調整ノブを回して塗料の量を指定します。

- | | | |
|------|---|----------|
| 左に回す | → | 塗料の量を増やす |
| 右に回す | → | 塗料の量を減らす |

7.3 空気量の調整 (図9)

空気量調整ノブを回して、エア量を増やしたり、減らしたりできます。



空気量と吐出量の調整は、適切に噴霧し、スプレーミストを抑える上で重要です。

7.4 サクションチューブの調整

サクションチューブが正しい位置にあれば、効率よく塗料を使用することができます。

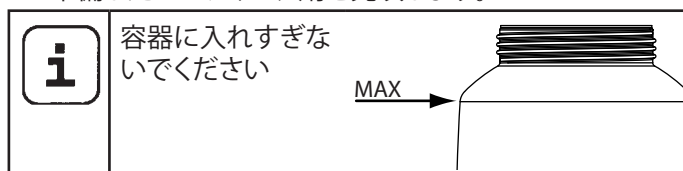
床と水平に置いた被塗物を塗装する場合:
サクションチューブを前に回します。(図10A)

頭上の被塗物を塗装する場合:
サクションチューブを後ろに回します。(図10B)

8 使用開始

電源に接続する前に、電圧が銘板に記載されている作動電圧と一致していることを確認してください。
本機、被塗物は必ずアースを取ってください。静電気が発生するとスパークを起し、火災・爆発・電気ショックの原因になります。

1. エアホースをガンに固定します。
2. エアホースのもう一方の端を機器本体にしっかり固定します。(図11)
3. 塗料コンテナをガンから外します。
4. 準備したコーティング剤を充填します。



5. サクションチューブにフィルターを取り付けます (図12、1)。
6. 塗料コンテナを回してガンに固定します。
7. 電源ケーブルをコンセントに差し込みます。
8. 本機のメインスイッチを入れます。
これで、作業が開始できる状態になりました。

9 塗装方法

スプレーガンのトリガーを引きます。

段ボールの上で噴霧を試し、スプレーパターン、スプレー幅、吐出量、空気量を調整します。

スプレーガンを垂直に持ち、塗装対象との間隔を3~10cmの間で均一に保ちます。(図13)

スプレーガンを、横に、または縦に、均一な速度で動かします。均一に動かすことで、塗装面のムラが防げます。

塗装対象に当たらない場所で噴霧を開始します。また、塗装対象への噴霧中に中断しないようにしてください。

スプレーミストが大量に発生する場合は、空気量、吐出量、そして塗装対象への距離を修正してください。

10 作業の中断

1. 吐出量調整ノブは止まるまで右に回します。それによって、塗装スプレーガンは誤って運転開始しないよう固定されます。
2. 本体のメインスイッチを切ります。
3. スプレーガンを本機のスプレーガン受けに置きます。

	<p>速乾性コーティング剤または2液型塗料を使用している場合は、必ず作業時間中に適切な洗浄剤を使って本機を洗浄してください。時間が経過すると、洗浄が大変になるだけでなく、損傷する可能性があります。</p> <p>重要: コーティング剤の可使時間は、加熱によって変わることがあります。コーティング剤のメーカーにご相談ください。</p>
--	---

11 運搬

1. 電源ケーブルをユニットに巻きつけます。
2. スプレーガンを、本機のスプレーガン受けに置きます。
3. エアホースを機器本体から取り外します。
4. エアホースを丸めて、固定テープで束ねます。

12 使用の停止とクリーニング

1. 本機のスイッチを切ります。
2. 容器を回して外します。
コーティング剤の残りを元の容器に移します。
3. サクションチューブとカップパッキンを回して外します。(図14)

	<p>スプレーアタッチメントは付属のブラシセットを使えば、特に効果的に清掃できます(例:図15と16)。</p>
--	--

4. サクションチューブと吸入口を洗浄ブラシできれいにします。(図15)
5. 通気口を洗浄します。(図14の2)

	<p>注意: スプレーガンのシール、弁、ノズル口、通気口を洗浄する際、尖った金属製の道具は絶対に使わないでください。 エアーチューブと弁は、溶剤に対する耐性があまり高くありません。 溶剤に浸さず、拭くだけにしてください。</p>
--	---

6. 調整リング(図2の4)を緩め、エアーキャップ(3)とスプリングプレート(5)を取り外します。
7. ノズルを緩めて外します。(図3)
8. エアーキャップ、ノズル、ニードルをブラシと溶剤または水を使ってきれいにします。(図16)

	<p>ニードルの隙間を特に丁寧に洗浄してください(図16の7)</p>
--	-------------------------------------

9. スプレーガンとコンテナの表面を、溶剤または水で濡らした布で拭きます。ねじ山(図16の6)には付属の洗浄ブラシを使います。
10. しるしのついている点に、シリコンを含まないオイルを軽く塗ります(図17)。
11. 部品を再び組み立てます(「組立」を参照)。

12.1 組立


	<p>注意: 組立を行う際は、以下の手順に厳密に従ってください。従わないと、ガンが損傷することがあります。</p>
--	--

1. ノズルをガンに装着し、締め付けます。
2. スプリングプレートとエアーキャップを装着し、調整リングを回してガンに取り付けます。
3. サクションチューブとコンテナのカップパッキンを回してガンに装着します。

	<p>塗装スプレーガンを長期間使用しない場合は、洗浄後に、シリコンを含まないオイルで保護する必要があります。</p>
--	--


13 メンテナンス

13.1 エアフィルター


	<p>注意! 汚れたエアフィルターを使用したり、エアフィルターなしで本機を作動させないでください。汚れが吸い込まれ、機能に悪影響が及びます。 エアフィルター警告灯はエアフィルターを交換する必要がある場合に赤く点灯します。</p>
--	---

1. 電源プラグを抜きます。
2. エアフィルターのカバー（左と右）を開きます（図18）。
3. エアフィルター（図18、1）は汚れの度合いに応じて、清掃（ブローアウト）するか交換してください。

13.2 空気弁


	<p>塗料が通気ホースに浸入した場合は、次の手順に従ってください。</p>
---	---------------------------------------

1. エアーチューブ（図19の1）をスプレーガンの上から引き抜きます。チェックバルブキャップ（2）を外します。弁（3）を外します。すべての部品を丁寧に洗浄します。

	<p>注意: エアーチューブと弁は、溶剤に対する耐性があまり高くありません。 溶剤に浸さず、拭くだけにしてください。</p>
--	---

2. 弁を、ピンの付いた面を内側に向けてチェックバルブキャップにはめます。
3. スプレーガン本体を逆さにし、チェックバルブキャップを下から取り付けます。
4. エアーチューブを、チェックバルブキャップ、そしてスプレーガン本体の突起に差し込みます。

13.3 ガン一式

	<p>メンテナンスについての情報は、ガンの取扱説明書をお読みください。</p>
--	---

14 トラブルシューティング

トラブル	考えられる原因	解決策
本機が作動しない	<ul style="list-style-type: none"> 電源が入っていない 本機の温度が上がりすぎた 	<ul style="list-style-type: none"> 点検します 電源プラグを抜き、本機が冷めるまで30分ほど待ちます。ホースが折れていないか、エアフィルターが正常か、吸引口がふさがっていないか確認します。
ノズルから燃料が出てこない	<ul style="list-style-type: none"> ノズルが詰まっている 設定された吐出量が少なすぎる 容器シールに損傷がある 容器内が加圧されていない 容器に塗料が入っていない 通気ホースが緩んでいる/損傷している サクシオンチューブが緩んでいる サクシオンチューブ/サクシオンチューブフィルターが詰まっている サクシオンチューブの通気口が詰まっている 弁が詰まっている 	<ul style="list-style-type: none"> 洗浄します 量を増やします 交換します 容器をしっかり締めるか、容器シールを交換します 充填します 差し込むか、交換します 差し込みます 洗浄します 洗浄します 取り外して洗浄します(13.2を参照)
本機を止めてもノズルから塗料が垂れる	<ul style="list-style-type: none"> エアキャップ、ノズル、ニードルが汚れている ノズルが磨耗している ニードルが摩耗、または損傷している 	<ul style="list-style-type: none"> 洗浄します 交換します ニードルを交換します(セクション3.1を参照)
噴霧が粗い	<ul style="list-style-type: none"> 吐出量が多すぎる ノズルが汚れている コーティング剤の粘度が高すぎる 容器内の圧力が低すぎる エアフィルターの汚れがひどい 空気量が少なすぎる エアホースが損傷している 	<ul style="list-style-type: none"> 量を減らします 洗浄します 薄めます 容器をしっかり締めます 交換します(13.1を参照) 量を増やします 点検し、必要なら交換します
噴霧にムラがある	<ul style="list-style-type: none"> 容器内のコーティング剤が少ない エアフィルターの汚れがひどい サクシオンチューブが緩んでいる サクシオンチューブ/サクシオンチューブフィルターが詰まっている 	<ul style="list-style-type: none"> 補充します 交換します 差し込みます 洗浄します
塗料が流れる(垂れる)	<ul style="list-style-type: none"> コーティング剤の吐出量が多すぎる 距離が近すぎる スプレーノズルセットが間違っている 	<ul style="list-style-type: none"> 量を減らします 吹き付け距離を長くします 他のスプレーノズルセットを使用します
スプレーミストが多い	<ul style="list-style-type: none"> 塗装対象との距離が長すぎる 吐出量が多すぎる 空気量が多すぎる コーティング剤を薄めすぎた スプレーノズルセットが間違っている 	<ul style="list-style-type: none"> 吹き付け距離を短くする 量を減らします 量を減らします 薄め液を少なくする 他のスプレーノズルセットを使用します
通気ホースに塗料が入る	<ul style="list-style-type: none"> 弁が汚れている 弁が破損している 	<ul style="list-style-type: none"> 弁を洗浄します(13.2を参照) 弁を交換します(13.2を参照)

15 付属品と交換部品

15.1 付属品 (図20)

番号	注文番号	名称
1	0261 020	RN30延長ノズル(長さ30cm)
2	0261 023	WSL 50スプレーランセット(天井や壁のリフォームや修理 / 別途圧送タンク必要)
3	524232	圧送タンク(2 L)
4	0261 024	WSJ 60スプレーランセット(スプレーガンを使っては処理できない特性の塗料用) 液体ウッドチップ壁紙、多色模様塗料、装飾用漆喰、テクスチャー塗料およびスプレーフィルターなど
5	2434549	プロジェクタセット、#2 (0,8 mm)
	2434550	プロジェクタセット、#3 (1,3 mm)
	2434551	プロジェクタセット、#4 (1,8 mm)
	2434552	プロジェクタセット、#5 (2,2 mm)
	2434553	プロジェクタセット、#6 (2,5 mm)
	2434554	プロジェクタセット、#7 (2,7 mm)

15.2 FINECOAT 9700 (図21) の交換部品

番号	注文番号	名称
1	2434503	フィルターカバーセット
2	2434505	エアフィルター(4個)
3	2434506	収納用仕切りカバー
4	2442013	エアホース
5	2430409	清掃ブラシセット
6	2324 751	エアホースの固定ベルト

15.3 ULTRA (図22) の交換部品

番号	注文番号	名称
1	2434391	サービスセット 前部
2	2434393	サービスセット エアバルブ
3	2434390	サービスセット HVLPガン
4	2441860	サービスセット エア調整
5	2434392	サービスセット シール(4個)
6	2434389	サービスセット トリガーガード
7	2434388	サービスセット チェックバルブ
8	2434387	コンテナカバー
9	2434386	サービスセットサクシオンシステム
10	2434385	カップパッキン(5個)
11	2434394	コンテナ (1000 ml)
12	2441862	ダイヤフラム(5個)

機器の点検

安全上の理由から、必要に応じた頻度で、ただし少なくとも12か月おきに、専門家に本機の点検を依頼し、引き続き正常に動作することを確認してください。

機器を使用していない場合は、点検を、次回の使用開始時まで延期することができます。

さらに、その国の(異なる可能性がある)点検規定およびメンテナンス規定にも従ってください。

不明な点がある場合は、Wagner社のカスタマーサービスまでご連絡ください。



廃棄に関する注意

本機の廃棄、および塗料、洗浄剤の廃棄に関しては、国・地方自治体の消防・電気・安全関連の法規定に従ってください。

製造物責任に関する重要事項

1990年1月1日に発効したEU規制に従い、メーカーは、すべての部品がメーカー製であるか、メーカーによって認可されたものであり、機器の組立と操作が正しく行われた場合のみ、製造物に対し責任を負います。他社製の付属品および交換部品を使用した場合、製造物責任の一部または全部が無効になります。極端なケースでは、管轄当局(同業組合および営業監督庁)によって機器全体の使用が禁止されることもあります。

WAGNER製の付属品および交換部品を使用しないと、安全規定を満たすことができません。

保証書

装置は次の製造保証により包括されています。

納入日から12ヶ月(1シフトの場合)或いは6ヶ月(2シフトの場合)以内に設計・材料・製造不良が原因で実質的に使用できない部品及び付属品の修理・交換を無償で行う。

修理交換に関する保証条件は当社の自由裁量で行われる。実施に伴う運賃、工賃、材料費は特別な事情を除きすべて当社で負担される。

下記理由で引き起こされた損傷は保証条項には包括されません;

天地異変による損傷、不適切な使用、購入者或いは第三者による誤った設置・始動、磨耗損耗、不注意な取扱い、不完全な保守点検、不適切な被塗物、代用材料、化学反応、電気化学作用。

ワグナーが製造していない部品に関しては保証条項に入りません。

交換部品の保証期限は拡大延長されませんので受領次第検査して下さい。

製品保証の喪失を避けるため、欠陥は直ちに連絡してください。

製品保証は購入先及び納入先に限定されます。

転売先での修理交換は有償となります。

この保証条項は法的制限は無く、当社の一般取引条件となります。

日本ワグナー・スプレーテック
〒574-0057
大阪府大東市新田西町2-35

TEL:072-874-3561
FAX:072-874-3426
www.wagner-group.com

仕様・部品番号は予告なく変更することがありますので、
あらかじめご了承ください。